



平成 27 年度「篠ノ井西中学校 学校通信」

発行日 平成 27 年 4 月 21 日

第 2 号 (178 号) 校内版

長野市立篠ノ井西中学校

電話 (026) 292-0244

FAX (026) 292-7880

担当：教頭 中山

布施だより

《 可能性の種を発芽させよう！ 》

少し時間が経ちましたが篠西中 27 年度がスタートして 2 週間。4 月 6 日 (月)、花冷えの春の午後、244 名の新しい仲間を迎え、松井英雄市議会議員様、近藤由美子 P T A 会長様始め多くのご来賓の皆様のご臨席を賜る中、第 50 回入学式が挙行されました。以下に入学式・始業式・各オリエンテーションの様子をお伝えします。

〈学校長式辞〉

ご入学おめでとうございます。男子 130 名、女子 114 名、計 244 名の皆さんは、今日から篠ノ井西中学校の生徒となりました。新しい制服に身を包んだ皆さんの顔は、今、とても輝いて見えます。「今日から中学生として頑張ろう」という意気込みが伝わってくるようで、とても頼もしく感じます。どうか、今の気持ちをしっかりと心に焼き付けてほしいと思います。



さて、皆さん一人一人の中には、自分でも気付いていない様々な可能性の種があります。これからはじまる中学校生活は、その可能性の種を発芽させ、根を深く伸ばし、幹や枝を太く、大きく広げさせていく 3 年間です。

その可能性の種を発芽させ、大きく育てていくために、大切な三つのことをお話しします。

一つ目は、「目標を持つ」ということです。目標を持つということは、自分を信じ、自分を伸ばす決意をするということです。今日は、新たなスタートの日です。今までの自分ときっぱりと別れ、新たな自分に向かうための目標をたててください。遠いところにある目標でなくともよいのです。例えば、小学校の時、頑張れなかったこと、できなかったことをしっかりとやっていく、あるいは日常生活の中で、新たなことに挑戦する、こうしたことでよいのです。そして、その目標が達成できたら、さらに次の目標に向かって歩いていく。こうした一步一步の歩みが、皆さんの可能性を育てていきます。



二つ目は、「当たり前を当たり前にする」ということです。本校では、このことを凡事徹底と言って、全校で大切にしています。「特別なことをするために、特別なことをするのではない。特別なことをするために、普段どおりの当たり前のことを当たり前にするのだ。」こう言ったのはあのイチロー選手です。彼はこんな言葉も残しています。

「小さなことを重ねることが、とんでもないところに行くただ一つの道」靴をそろえること、時間を守ること、話をしっかりと聴くこと、宿題をしっかりとやること、掃除に心を込めてやること、

こうした日常の小さな一つ一つの事を大切に、積み重ねていくことで、皆さんの可能性は確実に膨らんでいきます。

三つ目は、「仲間を大切にすること」です。仲間の支えなくして自分の力を伸ばすことは決してできません。皆さんが目標に向かう中で困難にぶつかった時やつらい時に、元気を与え、勇気づけてくれるのは仲間です。人は誰もが、周りの仲間とともに成長するものです。皆さんが仲間を大切にすれば、仲間も必ず皆さんを大切にしてくれます。支え合い、高め合うよりよい関係を仲間とともに築いていって下さい。

以上三つのことを心に刻み、中学校生活を送ってほしいとでほしいと思います。

そして新入生代表の山田一心（かずし）さんは次のように中学校生活への抱負を伝えてくれました。



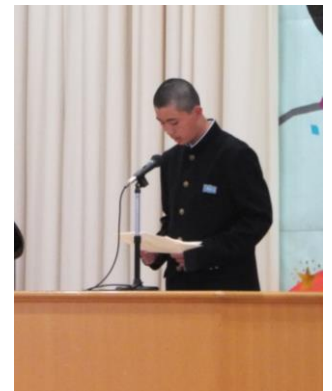
〈新入生代表〉

小学校時代、児童会活動のひとつとして「挨拶旬間」を計画しました。学校生活を楽しく過ごすためには、学年を問わず挨拶を通してのコミュニケーションが大切だと考え、挨拶で始まり挨拶で終わる一日を目指して活動に取り組みました。その中で、僕が思ったことは言葉として簡単に思える挨拶も、毎日の習慣として続けてもらうのはとても難しいということです。言われたからやるのではなく、自分からやろうと思う気持ちが一番大切なのだと考えました。これからの中学校生活でも、自分で考え行動していけるようになりたいと思います。まだまだ分からない事や未熟な部分も多い僕たちですが、先生方そして先輩方どうぞよろしくお願いします。最後に僕たちを今まで育て、見守ってくれた家族や地域の方々に感謝し、少しでも恩返しできるように頑張っていきたいと思います。 ～ 山田一心さん ～

始業式では、全校生徒 677 名が西体育館にそろって新しい生活への気持ちを寄せ合いました。2・3 年生代表の仲間から 1 学期 85 日間に向かう決意が語られ、全校で共有し合いました。

〈2 年生になって大切にすること〉

僕は野球部に所属しています。野球というスポーツは一人ではできません。一番大切なのは仲間です。昨年一年生の中で、無視をしたり悪口を言ったりというトラブルが起きました。チームの和を乱す原因となりました。それをなくすためには一人一人が仲間のことを考え、見かけたら「止めよう」と一声かけられるような仲間になることです。「止めよう」の一言は勇気がいりますが、とても大事なことです。そんな勇気を持てるとどんなチームにも負けないチームワークが築けると思います。クラスの中でも同じ事です。クラスメートという仲間を大切に、充実した学校生活を送っていきたいです。



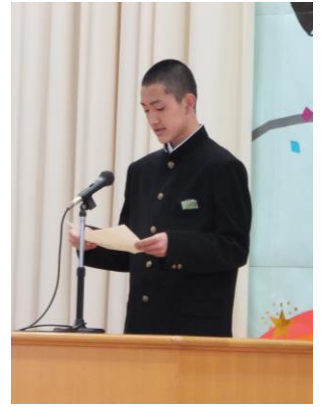
～ 春日謙汰さん ～

〈3 年生の抱負〉

僕が 3 年生として特に頑張りたいことが 3 つあります。ひとつめは部活動です。僕はバレーボール部に所属しています。3 年生としてチームと一緒に戦えるのは残りわずかです。自分ができる精一杯の努力を仲間の為にしていきたいです。その努力こそが部活動をする意味だと思うからで

す。ふたつめは勉強です。高校受験は点数がすべてではありません。ですが、どの高校にも必要な学力があります。進学したい高校に進むためにはやはり点数が必要です。そのために僕は普段の学習を丁寧に行っていきたいです。みつつめは「凡事徹底」です。本来やるべきことを当たり前に行うということです。僕はルーム長を務めているので「凡事徹底」ができる環境作りを行っていきたいです。最後の1年を良いものにしていきたいです。

～ 宮本桂太朗さん ～



《 出逢いの時 》

入学式を終えた翌日の7・8日（火・水）には、新しい生活のスタートダッシュをうまく切ることを願って、7日（火）には、『清掃・生活オリエンテーション』『生徒会入会式』『部活動顧問の先生紹介式』『部活動発足式』8日（水）には『部活動説明会』『生活・学習オリエンテーション』『交通安全指導』『地区生徒会』等があり、怒濤のように流れていきました。

『オリエンテーション』や『部活動紹介』を通じて、3学年諸君を中心に生徒たちは分かりやすくどう伝えたらよいのか、戸惑いながらそして時に恥じらいを見せながら、よくやってくれました。相手意識を強く持って伝えようとする3学年諸君が、わずか数日でグンと伸びようとしている、それを感じさせる677名が集まった西体育館の秩序ある集合でした。3年生になったことを意気に受け取っている上級生諸君です。

そして2週目、いよいよ授業が始まりました。私たち教職員にとっての〈誇り〉であるひとりひとりの生徒と、創り上げていく授業がドキドキワクワクで始まっています。



《 発見と可能性 ～ 奈良・京都の修学旅行 ～ 》

14日（火）～16日（木）に3学年の修学旅行が行われました。例年より肌寒く雨の中の奈良・京都でしたが、3学年諸君は〈発見と可能性〉をテーマに歴史と文化に触れてきてくれました。旅行に先だって行われた13日（月）の結団式では、（共に旅行に参加させていただく仲間のひとりとして）旅行に向けて次のように願いを伝えました。

3月末から4月の今日まで、卒業生諸君や入学生諸君に向けて、準備や配慮をしてもらって、ありがとうございました。3学年のみんなが、この一番忙しい時期を丁寧に準備に取り組んでくれたお陰で、とても落ち着いたあるスタートが切れました。先日新入生の日記にこんな文章が載っていました。

○入学式でした。小学校の時は「中学校」と聞くととても大きな存在であり、遠く感じる場所でした。そんなところにあった中学校の門を、今日一步踏み出しました。最初はとても緊張してしまい固まっていたのですが、廊下で

会う先輩方は、とても親切に教室の場所を教えてください、とてもうれしかったです。これからの中学校生活が楽しみです。 ～ ～ ～

この「廊下で会う先輩方は、とても親切に教室の場所を教えてください、とてもうれしかったです。これからの中学校生活が楽しみです。」という文章がとてもいいですね。こんな風に下級生諸君から、頼もしい「憧れ」として見られている。これからも生活の中での素敵な「モデル」としてよろしく頼みます。

さて、明日からの修学旅行です。願いはひとつ。「感じて」ください。歴史と文化に触れて感じてください。たった一体の仏像や庭園、建造物でいいです。拝観したい仏像や庭園、建造物をひとつ決めておいてください。そして、その前で、ひとりきりになって佇んでみてほしい。頭を垂れて感じて欲しい。

次にこの旅行を実施するために、いかに多くの方々が準備してくださっているか感じてください。ご家族の皆さん、旅行会社の皆さん、宿泊先の金波楼の皆さん、そして3学年の先生方が夜遅くまで検討し、みんなが精一杯奈良京都を追究できるよう準備してくださったことを感じてほしい。

そして仲間の良さに感じてください。より心地よい修学旅行にするために、係活動を始めとする諸活動や準備に時間をかけて準備をしてくれたこと。それを感じることができれば自ずと仲間の指示や呼びかけにまっすぐに応えることができますね。

わずか3日間なのだけど、修学旅行を終えて、初めて3年生は中学3年生になると言われています。私も、そんな皆さんの変化を楽しみながら感じたいと考えています。



2日目の京都では「班別体験学習」が行われ、生徒諸君が選んだ追究先の学習でした。タクシーの運転手さんとの楽しい交流を終え、全員が集合したのは比叡山根本中堂でした。上がったと思った雨も標高650mの高さでは再び雨に変わり、京都の春とは思えない冷たさでした。その冷たさの中、根本中堂の中で正座をし、床から伝わってくる冷たさにも身じろぎもせず法話に耳を傾けていました。そして法話の後、篠西中校歌「中学生ららら♪」の大合唱がお堂に響き渡りました。〈静と動〉。感じて、それを全身で伝えようとした篠西中生がそこに在りました。

〈発見と可能性〉をテーマに掲げた修学旅行を通して得られた変化が、これからの1年間に必ず生きて反映される、そんな確かな〈可能性〉を感じさせてくれる3学年諸君でした。